

# 田越川水系河川整備基本方針

平成28年9月

神奈川県

# 田越川水系河川整備基本方針

## 目次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針.....	1
(1)流域及び河川の概要.....	1
(2)河川の総合的な保全と利用に関する基本方針.....	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項.....	5
(1)基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項.....	5
(2)主要な地点における計画高水流量に関する事項.....	5
(3)主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項.....	6
(4)主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関する事項.....	6

(参考図)

田越川水系図

## 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

### (1) 流域及び河川の概要

田越川は、その源を逗子市沼間の横浜横須賀道路の逗子IC付近に発し、逗子市内を貫流して相模湾に注ぐ、流域面積約13km<sup>2</sup>、幹川流路延長約3.1kmの二級河川である。河口から池子川合流付近(2.36km)までの長い区間が感潮域となっており、河口から久木川合流付近(0.56km)までは河床勾配がほとんどない。

また、田越川の河口は逗子海岸の南端に位置しており、その逗子海岸は海水浴客やマリンスポーツなどで年間を通じて多くの観光客が訪れる、いわゆる湘南の海である。治水・環境面で田越川が担う役割は大きく、逗子市における社会、経済の基盤を成している。

田越川の流域は逗子市のほぼ全域におよび、流域内人口は44,379人(平成22年)となっている。流域の土地利用は、市街地が約46%、山地が約53%、畑が約0.6%、水域が約1.0%となっており、田越川やその支川によって形成されている低地部のほとんどは市街化され、沿川には住宅等が連担しているため、河道拡幅による流下能力向上が難しい。また、流域北西側の台地部においても市街化が進行しており、支川の池子川の中流部には、米軍住宅が建設されている。

田越川流域の地形は、三方を丘陵地帯に囲まれており、その谷地部に田越川や支川の池子川、久木川が流れている。地層としては、丘陵地には三浦層群及び上総層群の堆積岩類が分布しており、低地には、礫、砂、泥を主体とした未固結層が堆積している。

流域の気候は、夏季は高温多湿、冬季は乾燥する太平洋側気候に属し、近年35年間の年平均降水量は約1,700mm、年平均気温は約16.0℃である。

田越川の河道は、両岸がコンクリートブロック護岸で整備され、河道内に木本類はほとんど生育していない。河道内における植生帯はヨシ群落やヒメガマ群落等を主体とした抽水植物群落のほか、セイバンモロコシ群落やネズミホソムギ群落等の草本群落が成立している。また、重要種として、カワヂシャが確認されている。

魚介類は、田越川でこれまでに魚類36種、貝類・甲殻類33種が確認されている。重要種としては、ゴクラクハゼ等が確認されている。典型種としては、上流部の淡水域を主な生息域とする種(オイカワ、アユ、ミズレヌマエビ)、下流部の汽水域・海域を主な生息域とする種(ヒイラギ、マハゼ、マガキ)、河川全域で確認された種

(コイ、ボラ、イシマキガイ)が挙げられる。

両生類・爬虫類・哺乳類は、田越川及びその周辺でこれまでに8種が確認されている。重要種としては、爬虫類のアオダイショウが確認されている。典型種としては、水域を主な生息域とするカメ類が挙げられる。

鳥類は、田越川及びその周辺でこれまでに43種が確認されている。重要種としては、イソシギ、アオジ等が確認されている。典型種としては、水域を主な生息域とする種(ウミネコ、カワウ等)、市街地を主な生息域とする種(ドバト、カラス類)が挙げられる。

陸上昆虫類は、田越川でこれまでに189種が確認されている。河道内における植生帯が少ないため、陸上昆虫類については確認種数が少ない状況であり、重要種は確認されていない。典型種としては、水域を主な生息域とするモノサシトンボ、ハグロトンボ等のトンボ類、草本群落を主な生息域とするクビキリギス、オンブバッタ等のバッタ類やヒメホシカメムシ、ホソハリカメムシ等のカメムシ類、訪花性昆虫類(チョウ類、ハエ類等)が挙げられる。

流域における過去の水害としては、昭和36年6月集中豪雨、昭和41年6月の台風4号、昭和57年9月の台風18号が挙げられる。

田越川の治水事業は、昭和38年から改修が始まり、これまで1時間あたり50mmの降雨に対応する河道整備を進めてきているが、田越橋より上流区間は橋梁付近のみが未改修である。また、田越橋より下流区間は、沿川の用地取得にあわせて改修を実施しており、未改修区間が残されている。

田越川では、河川水の利用及び漁業権はない。

田越川の水質については、下水道普及率が100%に達していることもあり、田越川の環境基準点(渚橋)の水質調査結果(BOD75%値)は、平成13年度から平成25年度まで連続して環境基準(河川B類型(BOD3mg/L以下))を達成している。

## (2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

河川の総合的な保全と利用に関する基本方針としては、河川整備の現状、水害発生状況、河川利用の現状、流域の歴史・文化並びに河川環境の保全を考慮し、また、関連地域の社会・経済情勢の発展に対応するよう関連する既存計画等との調整を行い、段階的な整備を進めるにあたっての目標を明確にして、河川の総合的な保全と利用を図る。

### ア. 災害の発生の防止又は軽減

災害の発生の防止又は軽減に関しては、既往洪水、流域の重要性を鑑み、降雨及び出水特性の調査検討を行い、年超過確率1/50の規模の洪水から沿川地域を防御するため、河道を整備し必要な河積を確保することにより洪水の安全な流下を図る。さらに、津波の影響については、逗子市などの関係機関と連携し、必要に応じて対策を講じる。あわせて、洪水による被害を最小に抑えるため、ハザードマップ作成の支援、災害情報伝達体制の整備等により、洪水時のみならず平常時からの防災意識の向上を図るとともに、災害に強いまちづくりのため、地域防災計画や土地利用計画との調整を行い、総合的な被害軽減対策を関係機関や地域住民等と連携して推進する。

### イ. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

田越川では河川水の利用はないが、今後も良好な水環境の保全・創出に努める。

また、日常から流況及び魚介類の生息状況、河川の汚濁状況の把握に努める。

### ウ. 河川環境の整備と保全

河川環境の整備と保全に関しては、三浦半島の丘陵地帯に囲まれ相模湾に注ぐ豊かな自然環境を背景として、貴重な自然環境や自然環境と河川環境の生態的繋がり的重要性も考慮しつつ、多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・再生に努める。

また、河川が都市域での貴重な自然環境ならびにオープンスペースであることを踏まえ、自然環境の保全と親水性に配慮した人と川のふれあいの場となるような整備・保全を図る。

水質については、環境基準(河川B類型:BOD3mg/L以下)を達成しているが、さらに良好な水質となるように流域全体で努めていく。突発的な水質汚濁に対しては、関係機関と協力してその原因を調査し対策を協議し、適切な対応を行っていく。

## エ. 河川の維持管理

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、河川の有する多面的な機能を十分に発揮させるよう地域住民や関係機関等と連携しながら適切に行うものとする。

特に、護岸等の河川管理施設の機能を確保するため、平常時及び洪水時における巡視、点検を適切に実施することにより、河川管理施設及び河道の状態を的確に把握し、維持補修・機能改善等を計画的に行う。また、河川監視カメラによる監視の実施等により効率的な施設管理を行う。

また、自然環境・水環境に関する情報を、河川整備や維持管理に反映させる。

さらに、河川に関する情報を市民に幅広く提供することにより、河川と市民との連携を積極的に図り、河川愛護意識の啓発と定着、市民の参加による河川管理の推進に努める。

## 2. 河川の整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

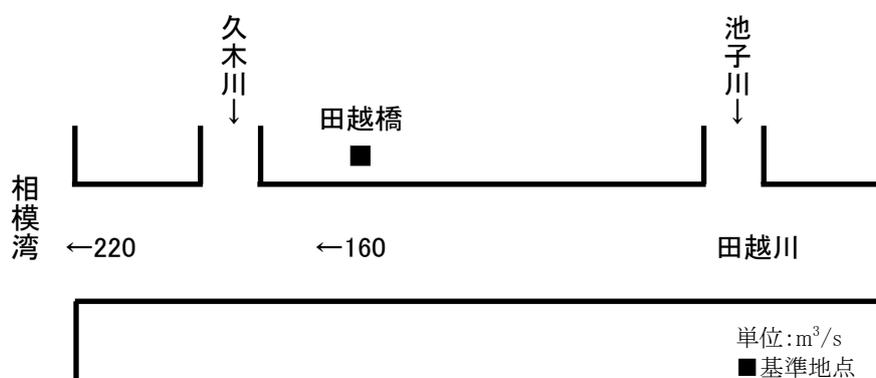
田越川流域の近年における出水の状況、流域の開発状況等を考慮し、降雨及び出水特性を調査検討した結果、基本高水のピーク流量は、基準地点田越橋において $160\text{m}^3/\text{s}$ とし、これを河道に配分する。

基本高水のピーク流量等一覧表 (単位: $\text{m}^3/\text{s}$ )

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
田越川	田越橋	160	—	160

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

田越川における計画高水流量は、基準地点田越橋において $160\text{m}^3/\text{s}$ とする。



計画高水流量図

### (3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

田越川の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は、次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位と川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T.P.(m)	川幅 (m)	摘要
田越川	田越橋	1.00	+1.87	16.2	基準地点

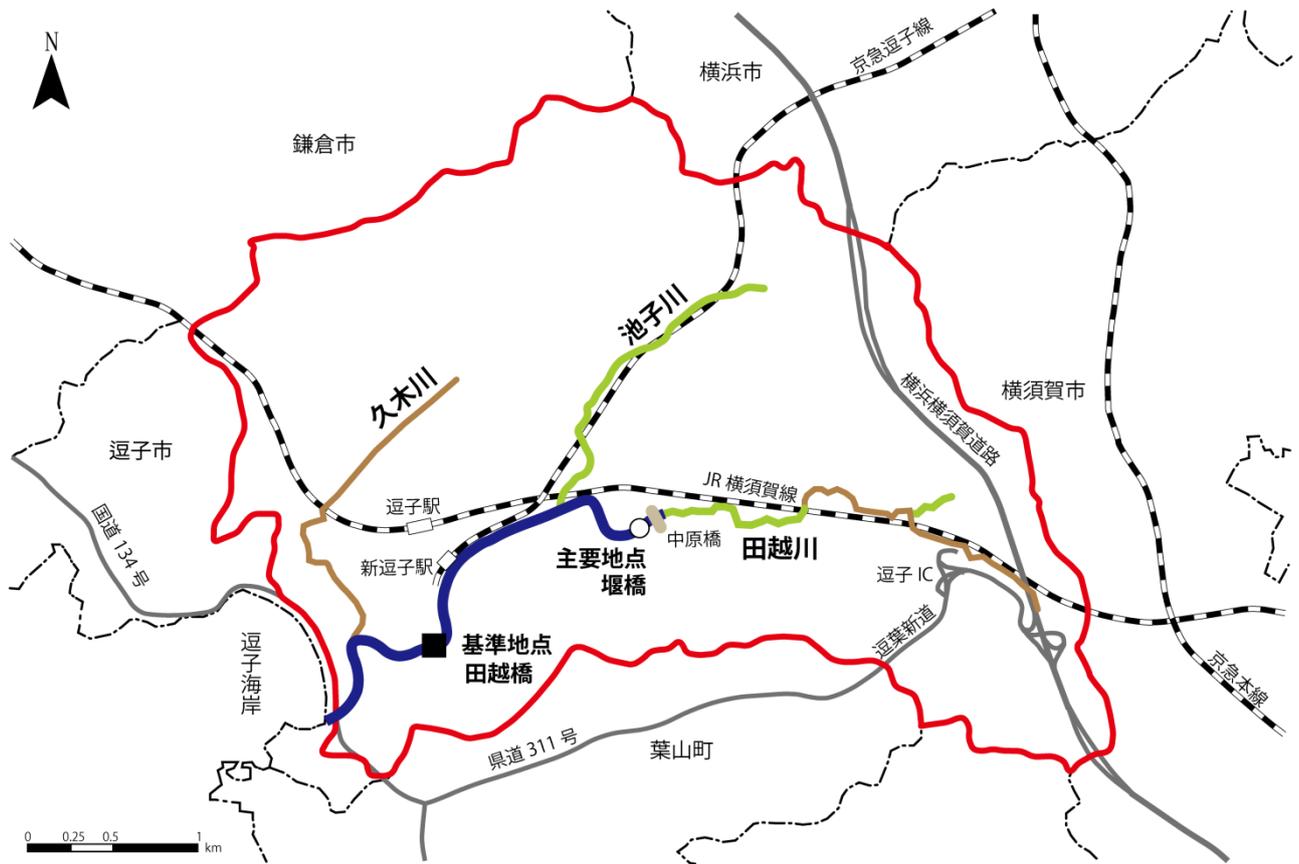
(注) T.P.: 東京湾中等潮位

### (4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関する事項

田越川における水利用及び漁業権はない。

また、堰橋地点における過去10年(平成17年～平成26年)の平均濁水流量は、約0.01m<sup>3</sup>/s、平均低水流量は約0.02m<sup>3</sup>/sである。

流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、今後、河川流況等の状況把握を行い、さらに検討を行ったうえで設定するものとする。



(参考図) 田越川水系図

凡 例	
	: 二級河川
	: 準用河川
	: その他
	: 流域界
	: 市町村界
	: 国道等道
	: 鉄 道

